



前東進路通信

令和8年5月11日
第3号

群馬県立前橋東高等学校進路指導部

■第1志望校を決めていこう！

新学期が始まって1ヶ月が経ちました。3年生は、最後の高校総体に向けた練習や試合に熱を傾けている人も多いことでしょう。と同時に、5月26日から中間考査、5月29日には進研大学入学共通テスト模試が予定されています。計画的な学習と、進路実現に向けた準備を意識しましょう。2年生は、部活動や学校行事の中心となる学年として、1年生の良き手本となるよう行動しましょう。1年生は、本格的な高校生活が始まり、学習や部活動など忙しくなってきたかと思いますが、毎日のやるべき事をコツコツとこなしながら学習習慣を身につけるようにしてください。

さて、3年生のみなさんに向けて4月16日発行の第2号で、学部・学科選びのポイントが挙げてありましたが、どうでしょうか？この5、6月は「第1志望校」を具体的に考えておいて欲しいと思います。前号の学部・学科選びのポイントを参考に、自分の興味や、将来の職業から逆算するなど様々な角度から検討しましょう。

■今年度大学入試のスケジュール(私立大学編)

6月	学校推薦型選抜		総合型選抜	一般選抜				6月
	公募制	指定校		一般方式		共通テスト利用方式		
				前期-2月等	後期-3月等	前期-2月等	後期-3月等	
7月	募集要項が出始める		★入試スケジュールは大学によって大幅に異なる。 ★入学の提出で入試が始まるのではなく、オープンキャンパスなどの参加から実質的に入試が始まる大学もある。	募集要項が出始める				7月
8月	推薦校内選考			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 大学入学共通テスト 受験室内公表(予定) 6月中旬 マイページ作成(予定) 7/1~10/2 * 大学入学共通テスト出願(予定) 9/15(火)10:00~10/2(金)17:00* 検定料等支払期間(予定) 9/15(火)10:00~10/2(金)23:59* </div>				8月
9月	出願	出願						9月
10月	入学試験	入学試験					10月	
11月	合格発表	合格発表					11月	
12月	入学手続	入学手続	募集要項が全て出揃う				12月	
1月			出願		出願	大学入学共通テスト(本試験) 1/16・17	1月	
2月			入学試験		<可否選考>	大学入学共通テスト(追試験) 1/23・24	2月	
3月			合格発表	出願	合格発表		3月	
			入学手続	入学試験	入学手続	<可否選考>		
				合格発表		合格発表		
				入学手続	入学手続	入学手続		

※共通テスト利用方式の出願締切は、共通テスト受験前のほか、共通テスト受験後の大学もある。

はじめに

今回は、**私立大学の受験パターンやスケジュール**について見ていきたいと思います。第1回スタディサポートの結果によると、国公立大学第一志望の人が69%、私立4年制大学第一志望の人が21%でした。国公立大学志望の人も、多くの場合私立大学も受験すると思われるので、合計**90%の人が何らかの形で私立大学を受験することになります**。多様化が進む大学入試の中でも、とくに**私立大学**は独自の入試制度を設けたり、特色を打ち出したりして分かりにくくなっているため、今号では、**私立大学**に絞って説明したいと思います。ただし、あくまで一般的な概略ですので、**必ず各自で募集要項や大学のwebページなどに直接あたるようにしてください**。毎年、複数の大学が昨年までの制度を大幅に見直していますので、“〇〇大学は昨年度はこうだったから～”と考えるのは絶対禁物です。**必ず最新のものを見るようにしてください**。

(1)一般選抜

①一般方式

もっとも一般的な方式である一般選抜は、さらに「一般方式」と「共通テスト利用方式」の2種類があります(左図「一般選抜」参照)。以前からあるもっとも一般的な方式が一般方式です。基本的に各大学が入学試験を実施するものですが、なかには「**一般**」とうたいながら**一部教科・科目で共通テストを必須とする大学・学部もあります**ので**最新の募集要項の確認が必須**です。「一般方式」の受験結果を用いて複数の学部学科に出願できる大学が増えており、受験料の併用割を設けている大学もあります。また、高崎など地方受験会場を設定している大学も増えているので受験費用の節約になります。

ほかの選抜方法とも共通しますが、多くの大学が**インターネットからの出願(web出願)**となっており、大学独自のフォームや、各大学共通のプラットフォームから出願する方式を採用しています。注意点としては、ネット出願をしたことで**出願を“完了したつもり”になってしまい、郵送すべき書類の送付を失念した、受験料支払いを忘れた、必着と消印有効を間違えていた**(いずれの場合も受験できません)など、冗談のような事例が実際あるので入念にチェックするようにしましょう。

②共通テスト利用方式

文字通り共通テストを用いて判定する方式で、ほとんどの私立大学が採用しています(一切採用していない大学もあります)。個別試験対策や試験会場への移動の負担や一般的に出願費用も抑えられているので、受験機会を増やすことができますが、それ故志願者が増加することも多く、一般方式よりも合格ラインが上がる場合があります。ただし、群馬県内私大に限ってみれば多くの大学で前東生が共通利用で合格しているので、県内私大も視野に入れる人は、年内入試に焦って手を出す必要はないかもしれません。いずれにしても、効率的に受験を勝ち抜くためにも計画的に受験スケジュールを立てる必要があります。

また、気をつけなければならないのは、**共通テスト試験前に出願しなければならない場合がある点**です。同じ大学・学部でも、パターンによっては共通テスト実施前に締め切られる場合がありますので、期日と内容の確認も必ずしましょう。

(2)総合型選抜

年々増加傾向にある選抜方式です。これまでも総合型選抜について説明があったことと思いますが、志望理由や意欲、探究活動などの実績を重視している点や、例外はありますが基本的に学校長の推薦が不要であることなどの理由から、**大学ごとの特色が強く出ており多様な選抜方法が見られます**。したがって、スケジュール面でも大学により大幅に異なります。中には、**オープンキャンパス(夏季休業中に実施されることが多い)や模擬授業(これも夏季休業中実施が比較的多い)**に参加することを必須としていたり、**レポートの提出を総合型選抜出願の条件としている大学もあります**。高校時代に取り組んだ探究活動などの実績と、大学が求める学生像のマッチングが重要となりますが、マッチングについて大学がシビアに見ていることが分かる一例を挙げます。昨年度の早稲田大学文学部の「地域探究・地域貢献入試」(総合型に相当)は、9月の第1次選考志願者は24名でした。その後第2次選考、及び1月の共通テスト成績提出も経て、2月10日の最終選考の合格者はなんと0名!その間、レポート提出や総合問題の筆記試験、面接がありますので相当の時間も労力も要します。それなりの準備と冷静な検討、そして覚悟が求められる制度でもあります。

(3)学校推薦型選抜

①公募制

推薦なので**学校長の承認が必須**です。ただし、原則として、指定校推薦のように高校ごとの人数枠がなく、大学が定める出願資格を満たしてさえいれば応募できるため志願者が集まりやすい傾向があります。そのため、年度や学部によって倍率が大きく変動します。したがって、評定平均などの出願資格を満たしていても、書類選考や面接、学科試験などで不合格となる可能性があります。例えば、上智大学の2025年度の公募制推薦では、学科によっては6倍を超えました。したがって、**公募制は大学が求める「実力」でライバルに勝たなければいけない推薦**であり、あえていえば**“落ちる”推薦**です。こうした理由から、公募推薦は高校での学業や諸活動にしっかり取り組んでおり、さらに大学で学びたいことが明確でそれらを直接アピールして合格を掴みたいと考える受験生に向いている制度です。また、万が一のことも想定して、一般入試に向けた準備や心構えをブレずに持続させる気構えも求められます。合格したら入学しなければいけない専願が多いですが、中には併願可能な公募制を設けている大学もあるので各大学の要項を確認してください。

②指定校

大学が高校を指定して推薦枠を設定するものです。1名である場合が多いですが、複数名の場合もあります。こちらも推薦ですので、評定平均値や部活動成績、生徒会活動その他生活態度など総合的な観点による校内選考を経て学校長の承認を経て推薦となります。こちらも専願です。

(4)看護

看護系志望の人で、大学と看護の両方を考えている人もいます。県内の看護学校の今年度の入試スケジュールはまだ発表されていませんが、例年だと、看護学校の入試は日程が早いので注意が必要です。

こうした日程を活かして、年内入試の高総看護学校を決めておいて、一般選抜で国公立大学にチャレンジするという戦略も可能です。

〈県内の看護学校一般入試の昨年度の日程〉

○高崎総合医療センター附属 高崎看護学校	一般 A 一般 B	入試 12/4 入試 1/22	発表 12/15 発表 1/30
○太田高等看護学院	一般	入試 11/25	発表 11/28
○伊勢崎敬愛看護学院	一般 1回 一般 2回	入試 11/8 入試 12/4	発表 11/12 発表 12/5

(※一般 4回 2/5,発表 2/6 まであり)

※私の勉強法～「暗記とは、覚えて慣れてやり通す！」～ 長井和司

生徒の皆さんは古文単語や古文の助動詞の暗記に苦しんでいると思います。「暗記」というと私は高校1年生で教わった古文の先生と大学1年生で半年間通ったエレキベースの先生を思い出します。何かを覚える時には今でもこの2人の先生の教えに従っています。少しでも私の経験が皆さんの役に立つといいなあと思って書いてみました。(ちなみに大学1年生でトリオバンド(ギター・ベース・ドラム)を組んだ私たちはあまりに独学の初心者だったため、当時前橋の町中にあった河合楽器のスクールに半年間3人で通うことにしました。この時出会ったベースの先生が私に多大な影響を与えてくれました。)昔の感じを思い出すように本文ではわざと「僕」を使っています。ご了承ください。

①声に出して覚える。

暗記する方法は人それぞれだが、「声に出す」ことをおすすめしたい。高校1年生の古文の先生の助動詞の授業は、先生の説明が終わった後、それぞれが声に出して200回言って覚えるというものだった。例えば、「けり」なら、「けら・〇・けり・ける・けれ・〇、過去・詠嘆、上は連用形」と覚えるべきことを生徒が200回声に出して言う。200回繰り返すのは実はすごく大変で、僕たちは早く終わりにしたくてどんどん言うスピードを上げた。結果的にはそれが暗記に役立ったと思う。単純なことを覚えるには、ある程度リズムを持って何度も繰り返すことが必要だ。結果的に1学期が終わるころには、クラスのほぼ全員が助動詞を覚え終わっていた。(当然こんな授業は今ではできない。)

同じことをエレキベースのレッスンでも経験した。ある時、先生が「長井君、C（ド）の音はどこにある？」と聞いてきた。僕は当然A弦の3フレットを弾いたが、先生は「他にもあるよね」と言い、「来週までに覚えてきて」と言った。やがて単音がコードになった。例えば、先生が「Cコード」というと僕はその音の一つ一つ弾きながら、「C（ド）、E（ミ）、G（ソ）」と音名を、続けて、もう一度弾きながら「ルート、3度、5度」と大きな声で度数を言わなければならない。簡単そうだが、「ド、ミ、ソ」だけでも指版の上にはたくさんある。加えて「ミ・ソ・ド」もあれば「ソ・ド・ミ」もある。それを押さえていちいち音名と度数をその都度大声で言う。てっきり曲を教えてもらえると思っていた僕は、これが何の役に立つのかさっぱりわからなかったが、結果的に2か月後には、ベースギターの指版の音をほとんど覚えることができた。（後々、先生が全ての基礎になるトライアド（コードトーン）を僕に教えてくれていたとわかったが、当時の僕にはこれが何につながるのか、さっぱり理解できなかった。）

②覚えて慣れる（使えるようにする）。

2学期の古文の授業はすごいスピードで文章を読む（訳す）授業になった。その中で「この助動詞は何の何形だ」と先生にしばしば聞かれた。さらに生徒の僕たちが恐れたのは、「理由」を答えなければならないことだった。（先生）「この「ぬ」は何の助動詞の何形だ。」、（僕）「打消の助動詞の「ず」の連体形です。」、（先生）「なぜわかる？」すぐに答えられなければそのまま立たされた。例えば「「ず」は未然形接続で上の「参ら」は未然形だからです。」とか「下の「者」は名詞です。したがって上は連体形になります。連体形に「ぬ」があるのは打消の「ず」だけです。」とかと答えればよいのだが、最初は皆すぐに答えられず、クラスの半分が立たされたことも多かった。一方、ベースのレッスンでも同じようなことがあった。僕はよく先生に「長井君の心には音が響いてないなあ。長井君はまだ暗記しているだろ。暗記の次は慣れないとだめだ。」と言われていた。なんのこともさっぱりわからなかったが、ある時から先生が、僕に音の感想を聞いてくるようになった。（先生）「このコード、どう思う。」、（僕）「安定してるっていうか…」、（先生）「これは？」（僕）「さわやかというか…。」果ては、（先生）「この3度の音どう思う？」（僕）「何か泥臭いです。」、（先生）「ここで3度から5度へ行くとどんな感じ？」（僕）「落ち着きます。でもルートに戻った方がもっと落ち着くなあ。」とかを毎回繰り返した。後々に気が付いたが、どちらの先生も覚えたことの「使い方」を教えてくれていたわけだ。おかげで僕は古文の読み違えが劇的に減ったし、大学のバンドで楽譜を見て、「ここでディミニッシュか、おしゃれだなあ。」とか「II・V・Iか、先生とやったなあ。」とか、「ここで6度を入れると確かジャズぽくなってかついいんだよな。」とか自然に思えるようになっていた。

③一つのことをやり切る。

古文の先生は僕たちに常々「買った参考書や問題集は10回やらんといかん。10回やるとその先が見えてくる。」と言っていた。ほとんど1冊の問題集もやり通したことのなかった僕は、浪人した時、その言葉を思い出し、古典の「傾向と対策」（今で言うと入試問題の過去問とその解説が出ている問題集）を買って本当に10回やった。7回目ぐらいで答えを暗記したので、その後は古文の問題のすべてを品詞分解した。10回目が終わると問題そのものもほとんど暗記していた。確か中央大の入試だったと思うが、「紀貫之の和歌を一首書きなさい。」という問題が出た。たまたま「傾向と対策」に和歌の問題がいくつか出ていて、それを暗記していた僕は自信を持って答えを書くことができた。さらに明治大だったと思うが、古文の問題に源氏物語の一節が出た。その半分は「傾向と対策」に出ていた部分であり、残りはその続きだった。前半を暗記していた僕は落ち着いて後半部分の解釈をすることができた。ベースのレッスンでも同じようなことがあった。最後のレッスン（レッスンは半年で1タームが終了する）で先生に「長井君のベースは親に買ったんだろ。」と言われた。その通りだった。（当時、僕はアリアプロIIのRSBというベースを使っていた。確か2万円ぐらいだったと思う。）先生は「このベースを最低あと2年は弾きなさい。使っている内に音も良くなるし、これが君のベースの音の基準になる。次に買う時は値段でなくこれより音が良いか悪いかで選びなさい。」と言った。レッスンでは、先生が僕のベースを調整してくれ、さらに僕のベースを毎回模範演奏で弾いてくれた。その度に僕は先生の弾く音に感動していた。後に先生がわざわざ生徒のベースを弾くのは、「上手くならないのは自分の腕ではなく楽器が悪いからだ」という初心者が良く陥る思い込みをなくすためだと知った。結局、先生の音を出すことはできず、大学4年間そのベースをずっと使い続け、今でも大事に保管している。

※以上の3つは、古い私の経験に基づいたものです。2人の先生に共通していたことは、たとえ時間がかかっても本質を迫する姿勢を崩さないことだと思います。学問に王道なしですが、皆さんもぜひ粘り強く取り組んでください！